

講義名	航空事業経営論		
科目区分	学部フリーゾーン		
担当教員	栗原 正憲		
開講期・曜日・時限	前期 木曜日 4時限	授業形態	
履修開始年次	3年生	単位数	2
		備考	

主題と概要

航空事業経営論（旧カリキュラムでは交通事業経営論）では、観光を支える交通事業全体を俯瞰した上で、国際観光ビジネスの視点から航空事業経営を中心に学修する。グローバルビジネスを展開する航空会社はどのような企業活動を行っているのか、最新のトピックスを幅広く取り上げ、航空業界を取り巻く環境を理解し、航空会社の様々な戦略や事業内容を学ぶ。航空会社の企業戦略を通して、世界情勢や現代社会を読み解く力を養う。

到達目標

交通産業の全体像や航空業界の基礎知識、最新の航空情勢を学び、これからの航空輸送事業を展望できる。
特に航空会社の多様なビジネス戦略を学び、ビジネス社会における企業の戦略的思考やマーケティング発想を理解できる。
航空会社の様々な業務内容を学び、航空業界への理解を深め就業意欲が高まる。

提出課題

毎回授業で感想、質問、意見を求める。
毎回授業で課題小レポートの提出を求める

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

授業で課す小レポートについては、次回授業の冒頭で出題意図と要点を解説して前回の学習内容を復習する。また、優れた小レポートを紹介するとともに、学生からの質問や意見についても解説を行い全体で共有する。

評価の基準

授業への参画姿勢（感想・質問・意見の提出）	50%
毎回授業で課す課題レポートの提出と内容評価	50%

履修にあたっての注意・助言他

観光産業への就業志望者、航空業界の研究に意欲を持つ学生の履修を期待する。
航空事業経営に関する知識、情報を積み重ねていく授業であり毎回出席すること。
遠隔授業となるため、感想・質問・意見などを積極的に発信して授業への参画姿勢を示すこと。
第1回目の授業において、講義の進め方、評価方法、小レポート等授業概要を説明するので必ず出席すること。

教科書

・「使用しない」。

プリント資料及び参考文献

必要箇所をプリント資料として配信し、パワーポイントを使用して授業を進行する。
参考文献は、適宜講義内に紹介する。

授業計画

- オリエンテーション
- 観光交通事業全般
- 航空の基礎知識と歴史
- 空港政策と空港運営
- 航空の自由化（世界の航空業界）
- 航空の自由化（我が国の航空業界）
- 航空産業の事業特性とレベニューマネジメント
- LTCの台頭とビジネスモデル
- 航空の企業戦略（ネットワーク）
- 航空の企業戦略（アライアンス、FFP）
- レベニューマネジメント
- 空港オペレーション業務
- 航空営業
- 航空貨物事業
- 航空会社の社会的責任（CSR）と環境対策

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）
イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート
エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション
カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

航空業界は、航空の自由化が推進され、世界最先端の技術開発とグローバルな競争の中にある。常に観光・交通・航空関連ニュースに関心を持ち、予習（2時間）として最新情報収集に努めること。毎回の授業で課す課題レポートを作成し（2時間）期日までに課題レポートを提出する。授業でわからなかった箇所は理解できるよう質問事項などを整理して次の授業に臨むこと。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

航空会社での勤務（本社部門、営業部門、空港部門、客室乗務員部門、整備部門など）の経験を生かして、航空業界のさまざまなエピソードを交えながら航空事業経営の難しさとおもしろさを伝える。

備考